



南部町立南部中学校 学校だより 第24号

# チーム南部中

令和3年3月16日(火)

校長 望月和彦

## 第10回卒業証書授与式

卒業式の前日、1・2年生と教職員で会場づくりを行いました。生徒たちはイスや机を並べてぞうきんで拭いたり、合唱台を並べたり、パンジーやガーベラの咲くプランターや鉢植えを運び入れて飾ったり、先輩たちのためにできることを精一杯やりたいという気持ちを感じられる働きぶりでした。遠藤養護教諭力作のメッセージボードや高山用務員さんによる玄関の飾り付けなどもあり、卒業を祝福する素敵な会場ができました。

そして、3月11日。絶好の天気のもと、南部町長佐野和広様、教育長芦澤和彦様をはじめ、町議会正副議長様、教育委員の皆様のご臨席を賜り、保護者やご家族が見守る中、厳粛さの中に温かい気持ちのこもった第10回卒業証書授与式を行うことができました。



2年生がつくってくれたコサージュを胸につけ学級担任の呼名に答える声、卒業証書を受け取る凛とした姿、そして、3年間の中学校生活を振り返り、感謝の気持ちとこれからの決意を表した一人一人の言葉と学年合唱



「生きる理由」と「未来へ」、そして代表遠藤楓乃さんの答辞、どれもが卒業生3年間の成長が表れた心のこもったものでした。コロナ禍という今までにない条件の中でも、本校第10期生として、これまでの先輩たちが築き上げてきた南部中文化をしっかりと受け継ぎ、自分たちが描く形に発展させ、11年目を迎える本校に確かな礎をつくってくれた60名でした。卒業式でも大きな感動を与えてくれた60名が、それぞれの進路先でさらに飛躍してくれることを期待しています。式では芦澤教育長様より心温まる励ましの言葉をいただき、

在校生として唯一参加した佐野遥斗さんが感謝と祝福の気持ちが詰まった送辞を述べてくれました。私は次のような言葉を贈りました。

…(略)… 長い臨時休業があり、再開後も多くの教育活動や楽しみにしていた行事が中止になったり、コロナ対策のために大きな制限を受けたり、今までと異なる学校生活となりました。「今年の三年生は可愛そうだ」という声を様々な場所で聞くこともありました。不満や苛立ち、残念な気持ちも抱いただろうと思います。しかし、皆さんは下を向いてはいませんでした。「こんな状況で何ができるのか。」「今まで通りにできないとすれば、どういう形や方法ならできるのか。」ということを真剣に考え、その取り組みを支えてくれる方々に感謝の気持ちを伝えながら行動していました。…(略)…

そうした活動はなぜ実現できたのでしょうか。その背景には、皆さんが一年の時から大切にしてきた「仲間と関わり、ともに成長しよう」という考え方があったと思います。中学生という時代は、些細なことにも不安になり、傷つき、悩み、もがく時代です。そんな時、どのような状況にあっても、仲間のことを自分のこととして考え、「自分がどう関われるか」「自分に何ができるのか」を真剣に考え、行動しているところを何度も見てきました。様々な困難や危機にも、みんなで考え、支え合い、乗り越えてきた皆さんでした。そんな皆さんだからこそ、コロナ禍という逆境の中でも、自分の幸せとともに、仲間や周りの人々の幸せを大切にしながら、大きく成長できたのではないかと思います。奇しくも、10年前の今日、我が国は東日本大震災という未曾有の災禍を経験しました。震災の大きな被害とその後の復興の歩みの中から、私たちはたくさんの大切なことを学びました。今回のコロナ禍で学んだこと、考えたことも、皆さんにとって大きな財産になることと思います。

さて、今日皆さんは南部中学校を卒業し、新たな進路へと巣立とうとしています。四月からは、今までよりも広い世界が待っています。たくさんの人との出会いがあり、新しい知識を学び、多様な価値観や考え方に触れることになるでしょう。その中で感動したり、共感したり、意欲をかき立てられたりすることがあるでしょう。反対に、期待通りにならなかったり、共感できななかったり、困難な状況に遭遇することもあるでしょう。そうした自分とは

異なる新しい価値観や考えに出会ったときこそ、自分の生き方を考え、葛藤し、より確かなものにするチャンスであり、困難な状況に立ち向かうときこそ、人生を切り開く新たな力を身につけるチャンスなのです。南部中学校の三年間がそうであったように、自分自身を大切にするとともに、新しい進路先で会うすべての人との関わりを大切に、知識を広げ、豊かな感性を育て、様々な困難や障壁を乗り越える力を身につけてほしいと思います。これからの社会は多様性や個性が大切にされる社会です。自分の考えに固執するのではなく、すべての人との関係性を大切に、互いの良さを認め、互いに高め合い、支え合える社会の実現に貢献できる人になってもらいたいと思います。新しい進路先でも南部中学校で学んだことに誇りを持って、大きく飛躍していってくれることを期待しています。私たち南部中学校の教職員はこれからも皆さんのことを応援しています。…（略）…

式後の学活の様子は、体育館とランチルームで保護者の方々にリモートで見ていただき、大変好評でした。また、終了予定時間を大きく超過してしまったこととお詫びいたします。

## 3年生は高校入試 1・2年生は領域別テスト

3月上旬には、山梨県と静岡県 of 公立高校と一部の私立高校の入試がありました。卒業後の進路を決める高校入試も大詰めとなり、山梨・静岡合わせて25人が受験しました。私立高校を受けた生徒の中には1月に合格が内定した生徒もあり、これから受験する生徒たちが3月まで勉強を継続して頑張るのは精神的にも大変だったと思います。そうした状況の中でも素晴らしいと感じたことは、「受験は団体戦」という雰囲気や学年みんなで作って、合格が決まった生徒たちも受験を控えている生徒と一緒に継続して勉強を頑張り、全員で合格を勝ち取ろうとしていることでした。先日、受験を終えた3年生の様子を尋ねると「とても緊張しました」「何とか精一杯やりました」「社会がちょっと難しかったです」など様々な感想が聞かれましたが、みんな無事に全力を尽くせたようです。

静岡県の公立高校入試2日目と同じ3月4日、1・2年生は領域別確認テストを実施しました。1・2年生にとって今年度最後の一斉テストです。テストを受けている様子を覗くと、すべての生徒が集中して問題に取り組んでいました。1点でも高い点を取ろうと、テスト直前は家庭でも勉強に時間をかける生徒は多いと思います。それは当然のことですが、同じくらい大切なのが答案用紙が戻ってきてからの振り返りです。どこができなかったのかを把握して、確実に理解できるようにしておくことです。テストの点数が低くても、次回同じテストをやった時に満点が取れるようにしておけば何の問題もないのです。2年生は1年後、1年生は2年後に入試が待っています。先を見通して着実に学力を高めていってほしいと思います。



## 2度目の「身につけたい力交流会」

3月5日の放課後、「第2回身につけたい力交流会」が行われました。これは生徒会が主体となつて、活動方針の柱の一つ「理想の自分を描き、努力できる南部中生」を目指すための取り組みです。1年生から3年生まで学年を超えた小グループをつくり、それぞれのグループごとに「自分が身につけたい力」と「自分の理想の姿」について意見交換をする会です。1回目は12月10日に「日常生活や授業について」、今回は2回目で「部活動について」です。生徒会事務局や3年生が話し合いのリーダーとなり、それぞれが身につけたい力や自分の理想の姿について各自の考えを発表します。生徒の話から出てくる身につけたい力には「行動力」「発信力」「やり抜く力」「関わる力」など様々な力がありました。2年生は1年生に、3年生は1・2年生に対して、自分の経験からアドバイスをしてあげていました。縦割りの活動は輝城祭などでもできなかったのが、異学年の生徒が目標や理想について膝を交えて話ができる貴重な機会となりました。



## 今年度まとめの「学校運営協議会」



2月26日に第4回の学校運営協議会を開催しました。今回の内容は音楽発表会以降の教育活動の振り返り、学校関係者評価の実施、学校運営協議会の今年度の総括などが主な内容でした。今年度の教育活動の成果を評価していただけたと同時に、来年度の学校運営の改善に関する貴重なご意見をいただくことができました。職員で内容を検討し、今後の学校経営にいかしていきたいと思ひます。一年間ありがとうございました。